

ずいそう

歴史は繰り返す

丹野光正



激しい揺れであった。通院治療帰りの家内を寝かせて一息。あっ、「宮城県沖地震」だ…。大丈夫・大丈夫…収まるよ…。壁時計の針を見ながら声を上げた。揺れは収まるどころか、激しさを増し、家がギシギシと悲鳴を上げる。食器が流れ落ち割れ飛ぶ音が…。新潟、十勝沖、宮城県沖、日本海中部…転動の度に強震は経験してきたのに、桁違いの揺れだった。ああ～又、激しい揺れである。

よそより強固に作った基礎と軸組は家の倒壊を防ぎ壁のひび割れもない。網入りガラスも割れていない。家は大丈夫だ。ありがたい。室内は、人形ケースや仏具が落下した程度で、チェーンや金具で固定した冷蔵庫やTV、家具も転倒していない。台所だけは砕け飛んだ陶器やコップで歩けない。

電気もガスも電話も携帯もダメ。「携帯の保存メール」で、娘と息子に「無事との地震第一報」を送信。「岩手・宮城内陸地震」から、携帯メールを使うことにしている。これが、一番早く確実だから。

ラジオはしきりに、沿岸部が津波で壊滅的な被害が出たことをくり返している。えっ？ 仙台市内も？ それほどの津波など「想定外」だったから。

さて、困った。電気もガスもダメ。集中ガス暖房だったから寒さ対策をどうする？ 1台だけ残っていた小型反射式灯油ストーブを使おう。炊事は、登山用ガスコンロだな。水道が止まらないうちにと、鍋類に水を汲み、キャンプ用タンクにも満タンだ。浴槽に水を張る。食卓だけを照らすローソクの揺れる小さな炎での夕食である。あっ、また揺れた。

外の小屋に出て驚いた。満天が輝く星空だった。街の全ての照明が消えた暗闇に、天空にちりばめられた無数の星は、将に原始の輝きだった。

三日目の夜、電気が回復した。TVの画像に息をのむ。「想定外」の津波の襲来と惨状に、東電福島原発の深刻な「想定外の事故」も重なっていた。

やっと店も開店したが、売るモノが少ない。小雪の中で3時間余りも並び、卵や豆腐を買う。灯油やガソリンの整理券に並ぶがもらえない。七日目に、横浜の息子が、カセットコンロと食材を背負い、新潟・山形経由でやってきた。ありがたい。

我々は、自分が経験したことのないモノのほか、起きて欲しくないモノまでを「想定外」と言っているが、今回の大津波も、史実や地質を、注意深く読み取れば、容易に「想定内」であったのである。

ウェゲナーは1912年のドイツ地質学会で、大陸は2億年前に分裂漂流を始めたとする「プレートテクトニクス」を発表したが、大陸移動の原動力を説明出来ず否定された。彼の死後、マントル対流原動力説と南極の氷床調査等の古地磁気調査で大陸移動が裏付けられた。日本の地震は「プレート」起因という。今回の地震は「想定外」であったという。

昨年秋、「貞観地震（869年：貞観11年）調査」の放映で、津波が仙台平野の奥深くまで達していたのが地質調査で確認されたこと。地区の町内会長が、我々の避難場所は、仙台東部（高規格）有料道路しかないのと言っていたこと。この何気なく聞き流していることが勝手に「想定外」をつくり出すのだと反省させられた。東部道路には230人余が避難して助かっているのだから。

原発事故を受け、平成23年9月の「原子力学会秋季大会」で講演された東北大学首藤名誉教授が、「23年前の論文で、原発の津波対策に警告したが、聞き入れられなかった。投資を拒み、利益のみを追求した経営者の姿勢、迎合した技術者の無策…」は、「想定外」と逃げる姿に厳しい。

その昔、北上川の改修計画説明会で、記者の質問：堤防の高さは何で決めるのか？に、当時の事務局長は「守るべき人命財産・価値」と「国力」のバランスと答えていた。「国力」か…なるほど。

少子高齢化と、グローバル化の負の代償（デフレスパイラル）の現在の「国力」、我々の世代の負担で東日本大震災の復旧・復興を成し遂げることは、決して容易な事ではないが、今も支援していただいている全国の人々・組織、ボランティアの熱情に感謝しつつ、英知を出して、解決していかねばなるまい。調べ・考え、予知し・伝え、逃げ・守ることに「想定外」は無い。「歴史は繰り返す」のだから。